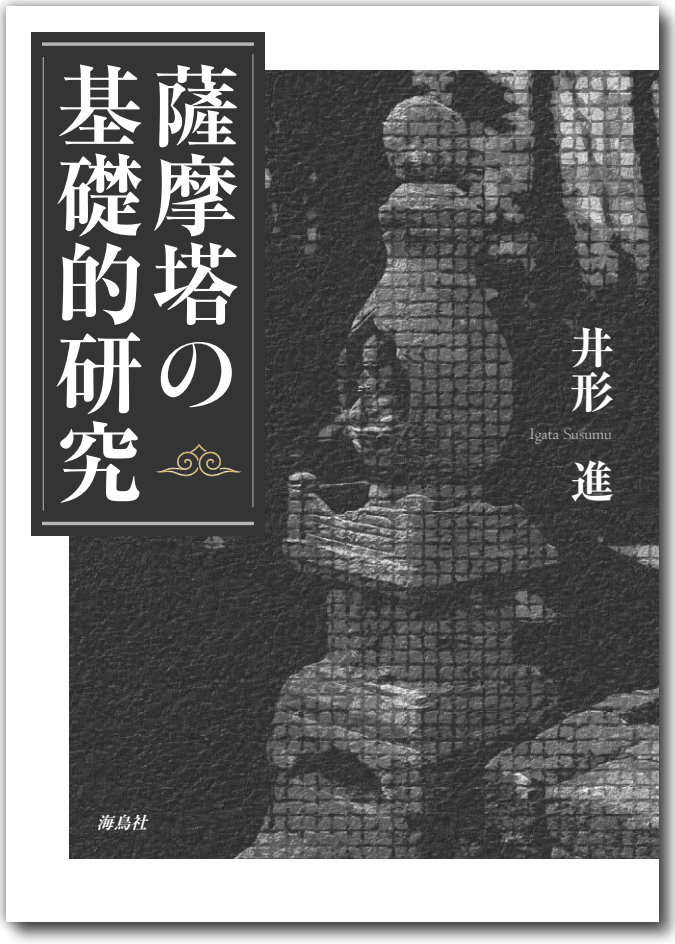
薩摩塔の基礎的研究



九州に眠る謎の石塔

発見から約 70 年、未だ出自が不明の薩摩塔。
本書では、塔の形状や彫刻表現、立地の分析から、
その正体は 13 世紀の中国でつくられ、
中国人の「海商」たちが日本に運び込んだ
宗教施設の一種であったことを初めて論証する。
東アジアの交流史に新たな光を当てる、
薩摩塔研究の到達点。

博士論文を基にした研究書ですが、謎を解き明かしていくような筆致で、歴史好きな一般読者にもお勧めの一冊です。

薩摩塔（さつまとう）とは？

【名称】1958 年に薩摩（鹿児島県西部）で発見されたことから「薩摩塔」と呼ばれますが、本来の名称や出自、機能等の詳細は未だ不明です。

【分布】現在、約 50 基が確認されています。九州北西部に集中していますが、近年、堺（大阪府）でも発見され注目を集めています。

【基本的な形状】下半分は四天王等が刻まれた角張った形。上半分は壺のような塔身の中に尊像が刻まれ、その上に屋根がのっています。

⬇ ⬇ ⬇

本書ではこれを、「尊像を中心に四天王が祀られたお堂を石で再現した、運搬可能な宗教施設」と結論づけます。

［著者］**井形　進**（いがた・すすむ）
昭和46年（1971）福岡県北九州市生まれ。九州大学文学部美学美術史専攻卒業後、九州歴史資料館学芸員となる。専門は仏教美術史。九州における信仰と造形の歴史について調査研究を進めている。博士（文学）（九州大学）。平成15年（2003）鹿島美術財団賞受賞。著書に『薩摩塔の時空 異形の石塔をさぐる』（花乱社・2012年）、『九州仏像史入門 太宰府を中心に』（海鳥社・2019年）等がある。

定価（本体9000円＋税）
2026年９月中旬搬入予定／Ａ５判／上製本／450頁

取扱取次 ▶トーハン／日販／地方・小出版流通センター／きんぶん図書［返品はフリー入帳です］

注文票	番線印	注文数 冊	**薩摩塔の基礎的研究** 井形　進 著 定価（本体9000円 +税）　ISBN978-4-86656-200-1　C0021
	ご担当者名　日付　／	図書出版 海鳥社	〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町13-4 TEL 092-272-0120　**FAX 092-272-0121**